

	令和元年 10 月 31 日発行	新規作成
変更 来 歴	R01 令和 2 年 9 月 24 日改訂	8.3 Update1 リリースに伴う追記： ・ 2.1 項 - 4), 5) 追加 ・ 3 項 [注記] Windows Server 2008 R2 未サポート追記
	R02 令和 3 年 3 月 5 日改訂	・ 2.2 項 2) [Credential Cache] 設定項目名称誤記訂正 2 か所

お客様各位

マイクロフォーカスエンタープライズ株式会社

## Reflection for Secure IT Windows サーバ 8.3 / Update1 リリースノート R01

Reflection for Secure IT Windows サーバ 8.3 および 8.3 Update1 のリリース内容を示します。

### 記

#### 1. 対象製品

- ・ Reflection for Secure IT Server for Windows バージョン 8.3 および 8.3 Update1 R01  
（以下、慣例にて「RSIT Windows サーバ 8.3」「RSIT Windows サーバ 8.3 Update1」と表記）

#### 2. 変更内容

- ・ 従来バージョン 8.2 SP1 Update1 からの主な変更内容は、以下の通りです。

##### 2.1 機能追加/ 仕様変更

###### 1) サポート OS の追加：

- ・ Windows Server 2019 をサポート

###### 2) サーバホスト鍵確認用“Fingerprint”ハッシュ値と表示形式の追加：

（ GUI 設定 [Identity] タブ画面とログ上で確認可 ）

###### a) SHA256 を追加

（ 従来は SHA1 と MD5 のみ ）

###### b) エンコード表記を“Base64”, “BubbleBabble”, “Hexidecimal”から選択可

（ 従来は、SHA1 は“BubbleBabble”形式、MD5 は“Hexidecimal”に固定 ）

###### 3) イベントログ(アプリケーション)記録内容の改善：

- ・ パスワード認証失敗情報にクライアントの IP アドレス情報を追加

#### R01 4) 楕円曲線暗号アルゴリズム(Elliptic Curve Cryptography: ECC)に対応（下記追加）：

##### a) 鍵交換アルゴリズム: ecdh-sha2-nistp256, ecdh-sha2-nistp384, ecdh-sha2-nistp521

##### b) 鍵ペア(サーバホスト鍵, ユーザ認証用): Key type=“ECDSA”

##### c) 証明書署名(サーバホスト証明書, ユーザ認証用):

x509v3-ecdsa-sha2-nistp256, x509v3-ecdsa-sha2-nistp384, x509v3-ecdsa-sha2-nistp521

#### R01 5) “rsshap.dll”(authentication package)に Microsoft 署名によるデジタル署名付与：

- ・ Windows LSA(ローカルセキュリティ機関)保護の追加構成環境においても、RSIT サーバによる公開鍵認証動作が認可され正常に動作

#### 2.2 不具合対策内容

##### 1) クライアント側コンソール画面幅を 129 桁以上広くした場合に、129 桁から画面幅桁数分までの表示が欠ける問題

〔発生条件：(a) RSIT Windows サーバ 7.2 SP1 ~ 8.2 SP1 Update1 〕

##### 2) [Credential Cache]設定 “Record passwords in the cache ... ”と“Use cached passwords to give users ... ” 両者有効とし、かつ 未だパスワード情報が未キャッシュ状態時にクライアントから公開鍵認証接続する場合において、公開鍵認証成功後に更にクライアントへパスワード入力要求する返答内に公開鍵認証許可情報も含むため、RSIT 以外のクライアントでは公開鍵認証試行を無限に繰り返しハングして失敗する問題

〔発生条件：(a) RSIT Windows サーバ 7.0 ~ 8.2 SP1 Update1 (b)クライアントが RSIT 以外 〕

3) SFTP Accessible directories (アクセス許可範囲指定)に NAS 接続デバイス領域があり、SFTP 操作において他の領域間と行きつ戻りつの操作を実施時に、内部的な NAS 切断を検知できずに再接続しないため、途中よりアクセス不可となる問題

[発生条件 : (a) RSIT Windows サーバ 7.0 ~ 8.2 SP1 Update1 (b)パスワード認証時 ]

4) デバッグログ記述において、Windows Server 2016 上で稼働時に、“Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard Edition”と誤表記する問題

[発生条件 : (a) RSIT Windows サーバ 8.2 SP1/ 8.2 SP1 Update1 ]

### 3. 対応プラットフォーム

- a) Windows Server 2019 (x86-64)
- b) Windows Server 2016 (x86-64)
- c) Windows Server 2012 R2 (x86-64)
- d) Windows Server 2012 (x86-64)

**R01** [注記] : Windows Server 2008 R2 は、RSIT Windows サーバ 8.3 リリース時点でサポート対象であったが、2020年1月14日以降 Microsoft 社による延長サポートが終了したため 以後 未サポートとする。

以上